

2017年度 筑波大学附属図書館 事業報告

障害のある利用者への資料電子化サービスの試行

学習支援



附属図書館ではアクセシビリティ部門と共同で、2017年4月に障害のある利用者への資料電子化サービスの試行を開始しました。視覚もしくは運動機能に障害をお持ちの方を対象に教科書等のテキストデータを提供するサービスで、出版社からテキストデータを取得、もしくは大学側でスキャン・OCR処理・校正によりテキストデータを作成し、著作権法第37条に認められる範囲内で、筑波大学の学習管理システムmanabaを通してデータを提供します。2017年度は試行で、対象者も限定し、提供はテキストデータ9件、PDFデータ5件にとどまっていますが、2018年度以降はサービスの本格実施にむけて、対象者の拡大と提供までの期間の短縮をはかります。

クラウドファンディング支援金による資料購入

学習支援



中央図書館での購入図書の展示

2017年1月26日から3月31日にかけて実施した「筑波大学図書館資料購入プロジェクト」の支援金により、図書428冊と、中止を予定していた延べ66タイトルの雑誌・新聞を購入しました。寄附者のご支援の気持ちを学生に届けるため、学習や研究に役立つ、大学図書館でしか得られない知的体験につながる資料を附属図書館で選書し、中央図書館と各専門図書館に配架しました。購入図書は6月下旬から全館で一斉に展示し、展示期間中は棚の前で足を止める多くの学生の姿を見ることができました。

また、今回の取り組みは当初より多くの人々の関心を集め、文部科学省「大学図書館における先進的な取組の実践例」として取り上げられたほか学外各所で事例報告を行いました。

「全国大学ビブリオバトル2017」茨城地区予選会（筑波大学会場）を開催

学習支援



チャンプ本に選ばれた『夜の国のクーパー』（北原光梨さん）

10月17日に中央図書館で大学生による「ビブリオバトル」を開催しました。ビブリオバトルは、本を通じて知識を深め、多くの人と交流を深めることのできる知的書評合戦です。当日はビブリオバトルに造詣の深い宇陀則彦准教授（本学図書館情報メディア系）、小野永貴氏（日本大学専任講師・本学OB）、常川真央氏（千葉大学特任助教・本学OB）を司会にお迎えし多くの観客が見守る中、発表者5名が5分間で本の魅力を語りました。投票の結果、チャンプ本として伊坂幸太郎著『夜の国のクーパー』（北原光梨さん・知識情報・図書館学類）が選ばれました。その後、北原さんは全国大会まで勝ち進み、参加した127校1,090名の頂点であるファイナリスト6名に選ばれた大健闘でした。

電子ジャーナル等の整備方針の決定

研究支援



新たな整備対象 American Chemical Society

2017年度第31回運営会議において、2019年度以降の電子ジャーナル等の整備方針が決定されました。新たな方針では、現行の方針を継承して、全学的に整備すべき資料については全学経費により確保するとしましたが、施行後の大学の間接経費の獲得状況を踏まえて必要に応じ見直すことが追記されました。経費抑制に向け、各系等にも継続的なご協力を賜りたいと思います。なお、整備対象とする資料については、学内への調査結果、購読状況、利用状況等により検討を行った結果、2016年度～2018年度の整備対象資料はすべて継続とし、新たな整備対象としてAmerican Chemical Society、IEEE CSDLの電子ジャーナルパッケージ、および聞蔵IIビジュアル（朝日新聞データベース）の3点を加えることとなりました。

つくばリポジトリ～オープンアクセス方針実施要領の制定

研究支援

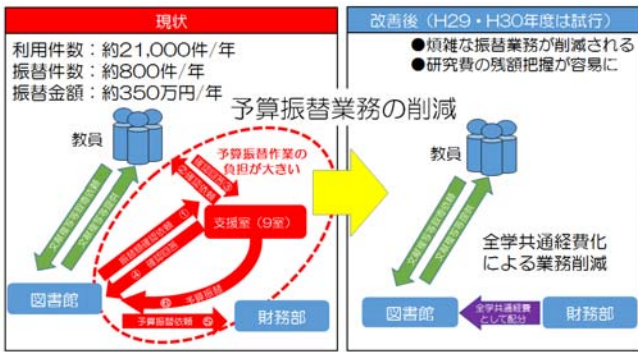


つくばリポジトリ (<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/>)

学内の教育研究成果を網羅的に収集し、社会的貢献及び学術研究の発展に寄与するものとして、2015年11月に筑波大学オープンアクセス方針を採択しました。これは、機関リポジトリを通じて本学の学術成果をオープンアクセス化することを制度化したものです。方針採択後、学術雑誌論文・紀要論文等をはじめとする多くの研究成果を公開してきましたが、さらにオープンアクセス方針への理解を深めていただき、つくばリポジトリへの登録の充実を目指し、2018年3月「オープンアクセス方針実施要領」を制定しました。今後も「つくばリポジトリ」では「研究成果の発信」という役割を果たしていきます。

相互利用サービスの全学共通経費化の試行

研究支援



予算振替業務の効率化

2017年11月に財務部と連携し、文献複写等サービスの全学共通経費化の試行を開始しました。文献複写等サービスを校費で利用した場合、予算振替処理が必要となり、そのための作業は、附属図書館だけでなく、財務部、支援室等でも膨大なものとなっていました。今回の試行は、この費用を各教員の個々の予算で負担するかわりに、全学共通経費で負担するものです。集計業務及び予算振替業務が不要となり、関連事務組織の業務改善につながるほか、教員研究費の残額把握がしやすくなります。2018年度までを試行とし、その結果を検証の上、2019年度以降の本実施について判断を行う予定です。

附属図書館研究開発室の活動について

研究支援



研究成果報告会 (2/27)

研究開発室では、学内の教員と図書館職員等が協力して、図書館機能に関する調査・研究や、学術情報の収集・発信に関する調査・研究、図書館の教育研究支援に係る調査・研究等を中心に活動を行っています。

2017年度は、これまでの継続プロジェクト研究に加え、「学内測位手法の研究」や「OPACログを用いた文献探索手法」などの新規プロジェクトも加わり、14名の室員で13のプロジェクト研究を行いました。また、継続プロジェクト研究である「理科系英文インターネットジャーナルの検討」では、「Futurum」の刊行も開始しました。

今年度の研究成果報告会は、口頭発表とポスター発表を併用で行い、多くの参加者の関心を集めました。

新規購入の主な教育研究学術資料

研究支援



人文社会系コレクションとして『オリンピック貴重書コレクション』はじめ7点を購入しました。『オリンピック貴重書コレクション』は、日本が初参加した1912年の第5回ストックホルム大会から1964年の第18回東京大会までの公式記録や参加報告、招致資料、写真アルバムなど、国内外の種々の資料を集めたものです。

このほか、1475年-1700年に英国で出版された印刷物13万点を収録する『Early English Books Online』（初期英語書籍集成データベース）、バックファイル利用の要望の多いIOP（英国物理学会）が刊行するジャーナル・コレクション『IOP Historic Archive（1874-2009）』を整備しました。

G. チョーサー『カンタベリー物語』1483
(Early English Books Online収録)

2017年度特別展「江戸の遊び心 -歌川国貞の描く源氏物語の世界-」を開催

社会貢献



内覧会の様子

10月11日から11月19日まで、中央図書館において図書館情報メディア系との共催による特別展を開催しました。本特別展では、原作の『源氏物語』の世界をふまえながら、歌川国貞の描いた『紫式部源氏かるた』を通して近世的な文化を紹介し、その発想が現代に通じることを明らかにしています。

本学所蔵の貴重書『源氏物語』や注釈書の展示に加え、『源氏物語』をビジュアル化した「源氏絵」については、歌川国貞と歌川豊国、尾形月耕の三人の絵師の作品を対比しながら紹介し、多くの観覧者の関心を集めました。

会期中には、展示企画者による特別講演会およびギャラリートークや、「浮世絵鑑賞システム」の開発チームによる実演デモも開催し、学内外から2,835名が訪れ貴重な資料を観覧しました。

体育・芸術図書館で本学所蔵アート・コレクションを展示

社会貢献



「石井コレクション」の展示

体育・芸術図書館で筑波大学所蔵「石井コレクション」の展示をはじめました。このコレクションは、2005年から2010年にかけて図書館流通センター代表取締役会長であった石井昭氏から寄贈されたもので、近代絵画や近世陶磁器など200余点で構成されています。現在、明時代の中国磁器1点が展示され、作品は定期的に入れ替わる予定です。芸術系では、学内に複数ある展示スポットを結び「アート・ストリート」を運営・展開していますが、体育・芸術図書館もそのサテライトとしての役割が期待されています。昨年度整備したアートな雰囲気溢れる学習スペース「ユーリカ！」に加え、貴重な芸術作品を身近に鑑賞できる新しいアート空間の誕生です。

図情図書館メディアミュージアムでの展示と講演

社会貢献



「筑波山と文学」綿抜教授による講演会と展示ポスター

図書館情報学図書館メディアミュージアムでは、2017年度も図書館情報メディア系、知的コミュニティ基盤研究センターと展示を共催しました（「金沢の肖像写真展」（2017/3/17～5/31）、「和本板本書誌雑知」（7/10～8/31）、「筑波山と文学－和歌・連歌など－」（10/23～11/30）、「明治の錦絵にみる笑い風物」（12/25～2018/2/23））。また図書館情報メディア系社会貢献事業「つくば観光振興のためのコンテンツ開発」とのコラボ企画として、10月23日（土）に綿抜豊昭知的コミュニティ基盤研究センター長による講演会「筑波山と文学－和歌・連歌など－」も開催し、NHKニュースいば6でも紹介され、一般の方にも多数来場いただきました。

附属学校等への学術情報提供の強化

社会貢献



附属学校教員向けWeb of Scienceのデモンストレーション

学術文献データベース「Web of Science」のデモンストレーションを2017年6月2日に東京キャンパスで開催しました。これはデータベース提供元と連携し附属学校教職員を対象に実施したもので、各校でのグローバル人材育成にむけた取り組みです。当日は、附属学校の教員や司書が参加し、文献検索や検索結果の分析方法等データベースへの理解を深めました。

また、附属高等学校の図書資料充実のために、今年度も駒場高等学校と坂戸高等学校へ図書の貸出を行い、授業での利用や卒業研究、SSH講演会や国内・海外の研究発表等に向けた準備などで、大学図書館の蔵書が有効活用されました。

さらに、附属高等学校（大塚）と坂戸高等学校を訪問し、今後の連携協力について意見交換を行いました。

筑波大学出版会10周年記念行事

情報発信



10周年記念誌

筑波大学出版会は、本学の研究成果を出版物としてわかりやすい形で社会に発信するため、2007年7月1日に設立され、10周年を迎えました。近年は、電子書籍やプリント・オン・デマンド版、さらには従来のオフセット印刷に加え、デジタル印刷による本文カラー対応など、新たな取り組みにもチャレンジしています。この10周年を一つの機として、筑波大学出版会をPRするとともに、出版会の今後の方向性等を探るため次の記念行事を実施しました。

- ① シンポジウム（9/29 大会会館国際会議室）
- ② 10周年記念誌発行
- ③ ポスター展（9/19～10/6 中央図書館ギャラリーゾーン）
- ④ 10周年記念本『サイバニクスが拓く未来—テクニピアサポートの時代を生きる君たちへ—』（山海嘉之 著）出版（3/30）及び出版記念講演会（3/18 東京キャンパス 文京校舎134講義室）
- ⑤ 10周年記念セール（書籍部10/2～10/31、1/15～2/28）

「新日本古典籍総合データベース」への本学所蔵資料画像提供

情報発信

新日本古典籍総合データベース
(<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>)

本学は、国文学研究資料館が中心となって行われる「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（2014～2023年度）に拠点連携大学として参加し、歴史的典籍データベース構築にかかる資料の画像を提供しています。「新日本古典籍総合データベース」は、日本古典籍ポータルサイトとして、国内外のさまざまな機関が所蔵する古典籍のデジタル画像を利用することができます。

附属図書館では、2016年度から医学・理学・産業・武学分野等の古典籍を中心に、外部資金にて電子画像データを作成しています。今後は、地理・文学・宗教分野等の古典籍を中心に画像データの作成を行い、データベースの充実のために本学所蔵資料画像の提供を行う予定です。

筑波大学附属図書館
平成30年3月31日